

不登校問題及び認知症対策

文教福祉委員会

9月27日に文教福祉委員会を開催し、教育委員会及び健康福祉部から不登校、認知症の現状について説明を受けるとともに、質疑を行いました。

1. 不登校問題について

不登校の現状などについて熊野中学校を訪問し、その取り組み状況などの報告を受けた後、意見交換を行いました。

○主な質疑

Q 熊野中学校の独自の取組があるか

A 不登校生徒が校内で安心できる場所と、個に応じた学習の支援や、将来に向けての自己実現をサポートする場所としてSSR(スペシャル・サポート・ルーム)：「れんげルーム」を設置しています。



▲レンゲルームを訪問

Q れんげルームを利用している生徒数は

A 3年生8名、2年生3名、合計11名が利用しています。

Q れんげルームではどのような取組をしているのか

A 時間の枠組みはあまり作らず、生徒の自主性に任せて教員と話し合いながら一日の計画を作るよう指導しています。

2. 認知症対策について

認知症の現状などについて高齢者支援課から報告を受けた後、認知症サポーター取得講習を受講した。その後認知症カフェ(オレンジカフェ)の視察と来訪者との意見交換を行いました。



▲認知症サポーター研修

Q 認知症サポーター有資格者数と資格を得るためには

A 平成20年から講座を開催しており、平成25年度からは中学3年生も対象とし、現在までに3,554名を養成しており、養成対象者は、地域住民、職域、学校、広域の団体、企業等幅広く要請しています。

Q 認知症カフェ開催頻度及び来店者数は

A 町内の、3カ所の各防災センター(東と中溝自治会館・西)で1か月に1回開設しており、それぞれ沢山の皆様にご利用いただいています。



▲認知症カフェ

今年度から新たな委員会がスタートしました。当委員会では必要な対策について町へ政策提言を行ってまいります。

手に取り読まれる議会だよりを

議会広報特別委員会

今年度の議員改選にともない、広報委員の半数が刷新されたことなどから、4年ぶりに全国町村議会議長会の広報研修会(東京 日経ホール)へ参加しました。



▲皆様に読んでいただける議会だよりの作成に努めていきます。

内容は、著作権等の法律、読んでみたくなる広報紙づくりの基礎、レイアウトの鉄則などすぐに対応できそうなことから、検討を要することなどまで、多様なものでした。

本町の議会だよりは、前号から各ページのレイアウトの変更や全ページ横書に統一するなどの取り組みにより町民が手を取り、読まれる議会だよりの作成に努めています。

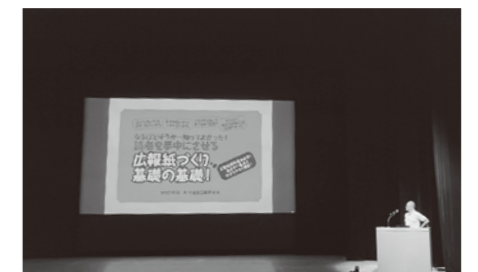
今後も研修等を積み重ね、町民の皆様読んでいただける議会だよりの作成を目指します。ご期待ください。

【研修内容】

○ 広報担当者が知っておきたい法律知識
講師：弁護士 玉置 奈々子 氏

○ なるほどそうか・・・知って良かった！
読者を夢中にさせる広報紙づくりの基礎の基礎！

講師：メディアプランナー
(株)フォーチュングラフィックス
代表取締役 白木 一誠 氏



▲白木氏から、夢中にさせる広報紙づくりのポイントについて学びました。

○ パッと伝わる広報紙に！
やっつけられないデザイン講座

講師：グラフィックデザイナー
(公社)日本広報協会アドバイザー 平本 久美子 氏

あ と が き

9月定例会の大きな議題は令和4年度決算認定でした。決算認定とは、議会が1年間の決算内容を確認し確定することです。法律に適合しているか、使われ方は適正かなどを審査するだけでなく、過去の財政状況と比較して問題点を指摘し、将来に反映させるなど大切な役割が議会にはあります。

税金の使い方を決めるのが予算審議ですが、決算の審査は使われた結果を検討し今後の予算編成や行政運営の改善に役立てる大切な意義があります。

追伸：地域経済応援クーポン券(くまポン)を積極的に利用して、町内のお店に元気を届けましょう。

光本 一也

次の定例会は

12月5日(火曜日)
開会を予定しています

議会だより題字

小田原正龍さん